

第6回総合戦略推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成27年10月29日(木) 18時30分～20時30分

2. 場 所 帯広市消防本部3階 屋内訓練場

3. 出席者 計28名 (有識者12名及び関係部長16名)

4. 議事内容報告

1 開会

※冒頭、事務局より欠席者の報告。

2 議題

(1) 帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略(原案)について

【はじめに～基本目標】

(説明要旨)

[はじめに]

○最終案段階で掲載。市長からのメッセージを予定。

[目次]

○全体を4章構成とした。

○骨子と比較すると、「IV 価値共創プロジェクト」が追加となっている。これまでの会議で、民間と行政の役割についてそれぞれご意見をいただいたが、両者を分けず、一体的な推進を図るため、プロジェクトという形で整理した。

[I 総合戦略策定の基本的な考え方]

○骨子と比較すると、「1 策定の背景と趣旨」が追加となっている。国による地方創生の推進や、「帯広市人口ビジョン」に記載した人口動向の要点などを記述している。

○「4 推進体制」では、現在の体制・組織を継続することを明記している。

[II 取り組みの基本方針(地域の現状と課題、基本理念)]

○「1 地域の現状と課題」では、「フードバレーとかち」の推進による可能性の広がりや、十勝圏の堅調な人口推移などに触れつつ、広域交通ネットワークの整備などによりさらなる発展のチャンスを迎えていることを記述。

○一方、人口ビジョンに掲載した自然動態、社会動態の概況や、TPPの大筋合意など、地域の現状と課題について総括的に記載し、今後、チャンスを活かし、育ててきた可能性の芽を開く取り組みが必要との認識を示した。

- 「2 基本理念」では、こうした現状認識を基本に、都市と自然が調和した地域の強みを活かし、十勝が力を合わせて持続的発展を目指すこととし、キャッチフレーズを「都市と自然の価値共創 ～フードバレーとかち～」とした。

[Ⅱ 取り組みの基本方針（基本目標）]

- 「(1) 新たな『しごと』を創り出す」では、食料・健康・環境・エネルギーなどの分野を柱に、誰もが誇りを持ち、安心して働き続けられる新たな「しごと」をつくることを目標に掲げた。数値目標のうち、「法人市民税（法人税割）の賦課法人数」は今回追加。経営基盤を強化して事業を継続し、利益を出し、納税してまちづくりに貢献いただけるような中小企業づくりを支援したいと考えたもの。
- 「(2) 十勝・帯広への『ひと』の流れをつくる」では、都市と自然の良さが程よく調和した十勝・帯広の特性を活かし、十勝でビジネスを起こす人、十勝を楽しむ人などを呼び込むことを目標に掲げた。
- 「(3) 結婚・出産・子育ての希望をかなえる」では、楽しく子育てできる環境づくりを進めるという視点を明記した。子育ては、負担ばかりでなく、喜びや楽しみもあるということを、しっかり伝えたいと考えている。
- 「(4) 安全安心で快適なまちをつくる」では、地域における人のつながりの強化や、広域連携などを通じた生活機能の維持・充実などを記載。

(発言要旨)

- 数値目標中、「とかち帯広空港の定期便利用乗降客数」について、観光客の誘致の視点もそうだが、ビジネス交流を進めるための施策も講じたほうが、数値は伸びるのではないかと
➢ 人の流れをつくるのは観光だけではないと考えている。名古屋線の就航に伴い、中京圏の企業へアプローチを進めるなど、引き続き取り組んでまいりたい。
- 新たな企業づくりばかりではなく、今ある企業が廃業にならないための取り組みなどが重要ではないかと
➢ 産業振興ビジョンを本年3月に改訂しており、事業承継など、今ある企業への施策も記載している。今後も、取り組んでまいる考えである。
➢ 数値目標中、「法人市民税（法人税割）の賦課法人数」や今後の取り組みの方向中、経営基盤の強化といった文言を追加しており、既存企業への支援も行ってまいる考えである。
- 創業・起業の目標件数250件は大変難しい。現状をしっかりと見つめながら取り組んでいただきたい。
- 「子育て応援事業所登録事業所数」を数値目標に設定しているが、登録事業所になるための要件は、今の企業に求められているものとしては当たり前のものである。もう少しハードルを上げてはどうか。
➢ 保護者からは、制度が活用しにくいといった声も聞く。まずは、登録事業所数を増やしながらか、その他のことにも取り組んでまいりたい。

- 「町内会加入率」が数値目標に設定されているが、例えば町内会を小学校区ごとにするなど、町内会の根本からの見直しが必要ではないか。
 - 現状の形の中で、若い人の参加により活性化を図るなど、取り組んでまいりたいと考えている。

【Ⅲ 今後の取り組みの方向（新たな「しごと」を創り出す～十勝・帯広への「ひと」の流れをつくる）】

（説明要旨）

〔新たな「しごと」を創り出す〕

- 「（１）地域資源を活かした産業振興」では、ICTを活用した先進的農業の推進や新規作物導入の支援など十勝型スマートアグリ（知識集約型農業）の推進のほか、GAP/HACCPの取り組みやと畜場の整備支援などによるTOKACHIブランドのグローバル展開、豆をはじめとした食と健康プロジェクトの推進、バイオマス産業都市などエネルギー自給社会の形成推進を盛り込んだ。
- 「（２）地域産業の競争力強化」では、会議でご意見があった外部人材の活用やクラウドファンディングなどを含め、創業・起業を支援するネットワークとして「とかち・イノベーション・エコシステム」を構築することを明記したほか、フードバレーとかちのグレードアップにつながる企業誘致も掲載。さらに、基本目標で説明した次世代型の中小企業を応援するため、市場開拓・販路拡大や経営基盤の強化などを盛り込んだ。なお、随所に写真等を掲載し、これまでの取り組みをイメージしていただきやすいよう、工夫したところ。
- 「（３）産業人の育成」では、小・中学校や帯広南商業高等学校における教育プログラムのほか、大学・試験研究機関と連携したハイレベルな人材や、地域産業のリーダーの育成を進めていく考え。

〔十勝・帯広への「ひと」の流れをつくる〕

- 「（１）地域の魅力の共有」では、地域の魅力や豊かさを積極的に発信すべきとのご意見を踏まえ、「生活の十勝ブランド」の発信に取り組むほか、多数のご意見をいただいた、郷土に関する理解促進の視点から、学校での教育プログラムや市民の学習活動などを盛り込んだ。
- 「（２）移住・定住の促進」では、帯広畜産大学と連携し、中心市街地における学生生活の促進などを通じて学生の地元定着に取り組むほか、東京事務所を拠点とした仕事探し支援の充実などによりUIJターンを促進する考え。
- 「（３）地域特性を活かした”とかち観光”の展開」では、地域の特色を活かした観光に関するご意見が多かったことを踏まえ、ファームツーリズムなどの推進を盛り込んだほか、アウトドア活動のフィールド形成や、地域が自ら観光メニューを売り込んでいくDMOの取り組みを進めていく。なお、KPIのうち、「十勝管内宿泊客延べ数」については、オール十勝で体験・滞在型観光を推進する観点から設定したもの。

(発言要旨)

- とち、という言葉が平仮名やアルファベットで表記されているが、認知度は漢字の「十勝」の方が高いので、見直しが必要ではないか。
 - 固有名詞の箇所以外は精査をさせていただきたい。
- 十勝の基幹産業は農業であるのだから、K P Iは「原産地証明発行件数」など間接的なものではなく、T P Pの流れも見据えつつ、農畜産物の輸出額など直接的なものにするべきでは
 - 輸出の強化など取り組んでまいる考えであるが、現状では先々の目標を立てにくい状況であるのご理解いただきたい。
- 農業に関するK P Iを入れたほうが良い。
 - 農業産出額などは確かに指標として考えられるが、農業を基盤にどういことができるのか、といったことを中心に考えてまいる考えであり、今回はK P Iに入れないこととしている。
- 事業計画の磨き上げなどを支援するイノベーション・ハブ機能の整備について記載されているが、図書館にハブ機能を整備してはいかがか。
 - 帯広市図書館ではビジネス支援の取り組みを進めているが、ハブ機能とは、域内外の人材や関係機関などのネットワークの中心であり、その役割を図書館が担うものとは考えていない。
- 「次世代の担い手育成」について、高校卒業後の定着率が大変悪いと聞いている。それを把握したうえでK P Iを設定しているものなのか。
 - 卒業生の後追い調査などは行っていないが、他のページで「支援先企業の離職率の低下率」というK P Iを設定している。
- 「バイオマス利用量（発電量）」をK P Iに設定しているが、発電として利用可能なバイオマスはなかなかハードルが高いと思うので、熱利用も含めた形でも良いと思うので、検討して欲しい。

【Ⅲ 今後の取り組みの方向（結婚・出産・子育ての希望をかなえる～安全安心で快適なまちをつくる）】

(説明要旨)

[結婚・出産・子育ての希望をかなえる]

- 「(1) 仕事と生活の調和の促進」では、十勝定住自立圏の取り組みとして結婚を希望する若者の支援のほか、女性の活躍支援、事業所に対する支援など男女共同参画社会の推進を掲載している。
- 「(2) 子育て・教育環境の充実」では、学校支援地域本部や地域子育て支援センターの取り組みをはじめ、新たに遊びや絵本を介した楽しみながら子育てできる機会の充実を盛り込んでいる。また、子育て世帯への切れ目ない支援として、産後ケアなどを相談機能の強化や住宅供給の推進などに取り組む考え。

[安全安心で快適なまちをつくる]

- 「(1) 地域コミュニティの活性化」では、コミュニティ活動の周知活動、地縁型組織とN P Oの連携やビジネス的手法の導入の検討、障害者雇用の促進に

に向けた取り組みのほか、地域における防災体制の充実などについて掲載している。

- 「(2) 高齢社会への対応」では、「高齢者おでかけサポートバス事業」など、既存の施策を推進しながら、日常の生活を支援するサービスの提供体制の整備を進めるほか、看護師・介護士の人材確保に向けた取り組み、今後増えてくることが予想される空家対策の推進について掲載している。
- 「(3) 都市機能の確保」では、公共施設マネジメントを進めるとともに公共施設の耐震化・長寿命化などに取り組むほか、地域公共交通の再編促進、中心市街地の活性化としてまちなか居住やにぎわいの創出を図る考え。
- 「(4) 広域連携の推進」では、十勝定住自立圏の中で新たに組みあがるいは拡充する取り組みを中心に掲載しており、具体的には、救急医療体制等の確保、スポーツ大会等の誘致、航空宇宙産業基地構想の推進、結婚支援ネットワークの形成、ビッグデータ等を活用した十勝圏の現状分析を進める考えである。

(発言要旨)

- 地元では、大谷短期大学やコア学園が介護分野の人材育成をしているが、学生の集まりも十分ではないと聞いている。こうした教育機関との連携も大切と思うので、意識して進めて欲しい。
 - 介護職場の魅力向上のほか、一旦離職した人に対する支援など、事業者との連携に加え、取り組んでまいりたい。
- 「安全安心で快適なまちをつくる」に掲載されている、航空宇宙産業基地構想は、産業に係る取り組みではないか。
 - ご指摘のとおり、産業分野にもつながっていくものと認識しているが、広域連携の取り組み全体を安全安心なまちに位置づけているものであり、定住自立圏の枠組みを活用したものは全てここに盛り込んだ。
- 葬儀や子ども会の取り組みが町内会で行われなくなり、結果として加入率が低下し、町内会に加入する意義も住民が見出せなくなっている。今後、町内会の維持のためにも、自主防災の取り組みを進めていただきたい。
- 医療・福祉の人材確保として、看護師と介護士について掲載されているが、医師・歯科医・薬剤師など医療分野の全ての人材が不足していることを認識した上での記載をお願いしたい。
 - 後期高齢者が増えてくる中で、医療・福祉分野の人材確保はたいへん重要なことであると認識している。ここでは看護師と介護士の人材確保を掲載しているが、後述する地域包括ケアシステムの構築の中で医療・介護の連携を進めてまいりたい考えであり、ご指摘の点については、この取り組みの中で意識してまいりたい。
- 漢字で書けるところを平仮名表記している箇所や、横文字にしている箇所など散見されるので、整理をお願いしたい。

【IV 価値共創プロジェクト】

(説明要旨)

- 複数の分野にまたがる横断的な取り組みを進め、新たな価値を創り出すことを目指すものとして、価値共創プロジェクトに取り組む。これまでの会議で、民間の役割と行政の役割などについても議論を行ってきたが、それを分けて進めていくのではなく、幅広く連携しながら取り組んでまいりたいと考えている。
- これまで、仕事づくりが重要であるとの意見を多くいただいた。人口減少で個人消費が減り、地域の活力の低下が懸念されるが、稼ぐ力を地域一体となつて高め、地域の持続的発展につなげてまいりたいと考えている。
- 「フードバレーと勝ち輸出戦略拠点の形成」では、T P Pの大筋合意を踏まえながら、農業を力強く成長させるため、品質向上を図り、輸出拡大に取り組むとともに、高速道路の早期建設や規制緩和に向けて取り組む考え。
- 「日本トップクラスの『食』のブランドづくり」は、G A P・H A C C Pなど食の安全に向けた取り組みを進める中で、オリンピック・パラリンピックも見据えながら、国内最高水準の食のブランドづくりを進め、販路拡大を図るもの。
- 『混血型』事業創発の促進」は、現在、域外の事業者から刺激をいただきながら、地域の事業者との交流者を通じて、新たな事業創発を目指す取り組みが進められており、この仕組みづくりに取り組むもの。
- 「自然を満喫するプレミアムなライフスタイルの提案」は、十勝をアウトドアのフィールドとして活用し、家族やアクティブシニアがプレミアムな時間を満喫することのできる機会を提供することで、新たな人の流れや関連産業の創発につなげていくもの。
- また、少子高齢化、核家族化などに伴い、人のつながりの希薄化などが懸念されている。これまでの会議でも人とのつながりの大切さが指摘されてきたところであり、新たなつながりを紡ぐことを2つ目のテーマとし、地域で支え合う社会の構築を目指してまいりたいと考えている。
- 「帯広版アクティブ・ラーニングの推進」では、子どもたちが十勝・帯広を教材として活用しながら、体験活動などを通じて主体的に学ぶとともに、郷土愛を育むことを目指すものであり、地域の協力のもと進めてまいる考え。
- 「地域包括ケアのしくみづくり」は、高齢者が住みなれた地域で生き生きと暮らし続けることが出来るよう、I C Tの活用等を図りつつ、在宅医療・在宅介護などの必要なサービスが受けられるための体制づくりを進めてまいりたい。

(発言要旨)

- 特になし。

【全体を通して】

(発言要旨)

- PDCAの検証・改善はどのように進めるか確認したい。
 - この会議の中で、進捗状況の把握や評価とともに行ってまいりたいと考えている。
- 産業振興会議やとかち高等教育推進まちづくり会議といった、総合戦略と関わりを持ちそうな会議との関係性はどうか考えているのか。
 - どの会議が上といったところではなく、この会議は人口減少問題の部分を中心に議論していこうという趣旨である。ご指摘のとおり、重なる部分はあると思う。
 - この会議には市の各部長も入っており、各部が所管している審議会等と情報を共有してまいりたいと考えている。
- 地域コミュニティという言葉が何箇所か使われているが、町内会なのか、福祉センターの単位なのか、何か範囲のイメージはあるのか。
 - 様々な単位が重なり合っていくものと考えおり、限定するものではないが、それらがしっかりと繋がっていくことが大切と考えている。

(2) その他

※事務局より、次回は1月下旬に開催予定との報告があった。

以上